

事業所名

支援プログラム（参考様式）

作成日

7年

1月

15日

法人（事業所）理念	利用者様が笑顔で来所し、笑顔で帰宅できる支援を行います。ご家族の支援も丁寧に行い、職員には第3者組織の専門家による面談や研修を実施します。				
支援方針	職員の研修やストレスケアに注力することにより、利用者様により個別のてかつぶさわしい支援を行います。利用者様に圧力による支援は絶対に行いません。そのため、特性や個性、障がいに対する知識を深めるために、職員全員が1ヶ月に一回以上の委員会・研修活動を実施しています。保護者様には心理専門職によるカウンセリングやコンサルテーションは随時、オンライン・電話・対面でサポートを受けることができます。				
営業時間	9時 又は13時	0分から	18時	0分まで	送迎実施の有無 <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし
支 援 内 容					
本人支援	健康・生活	毎日の健康観察を行います。診断名に応じて内服がある場合、生活指導を含めた内服状況の把握を行い、必要時に医師との連携をします。生活面では保護者の方のや勤務状況にあわせ、延長支援が可能です。生活能力は実際の活動場面で取り入れることを重視し、夏はプールで着替えて入浴するスキルやマナー、片付けを学び、冬は調理（パンやおかず、おやつ作り）を計画し、買い物や必要な物品の使い方（秤や計量カップ、計量スプーン等）を身につけられるように支援します。			
	運動・感覚	発達段階に応じた、運動を活動プログラムに取り入れています。基本的な公園での遊びマナーを近所の公園で実践します。地域の児童と交流するときには、穏やかなコミュニケーションが取れるように、近くで観察し声かけや遊びの誘導をします。運動の基本となる筋力やバランスに関して、筋トレやスクワット・片足立ちなど楽しんでできるメニューを室内でも取り入れています。			
	認知・行動	特に小学生の低学年では、学習の基本となる認知力、数唱（1, 2, 3と声に出して数えること）書き取り（ひらがなの学習）絵カード（単語の読み方）などから個別にサポートし、学校の宿題が無理なく、楽しく取り組めるように優しく教えます。小学校の高学年や中学生には、基本的な漢字（学習レベルにあわせた個別のプリントづくり）や生活に必要なお金の単位、数学（苦手な部分の基礎事項に合わせた個別の問題づくり）で対応します。行動面には絵カードを作成しSST（ソーシャルスキルトレーニング）でアプローチします。			
	言語 コミュニケーション	本人が自分の言いたいことを自由に述べるができるように、職員は傾聴します。日頃から表現力を養うとともに、学校であったことや家庭での経験なども話題にしています。ミント内でのコミュニケーションは、おもちゃの譲り合いや集団でできるゲーム（人生ゲームやカードゲーム）の導入により、相手の気持ちを理解しながら進めることができるように、職員が見守ったり、一緒に参加して行います。			
	人間関係 社会性	小学校低学年で通所開始の場合には、利用期間の長い先輩の利用者がともに支援をし、学習をはげましたり、ルールを優しく教えます。職員の特技を生かして、活動を企画し、ともに楽しむことで、大人との良好な関係作りに努めます。長期休みや土曜日などには、外出活動としてイベントや一般の遊び場、科学技術館、美術館、博物館、動物園などに出かけて、施設のルールに触れ、自ら守ろうとする姿勢を育てます。			
家族支援	通所記録は専用のアプリで閲覧でき、チャットで連絡（学校時間割や下校時刻の連絡、受診予定等）や児童の相談や利用状況の確認などができます。定期的な面談、支援計画書の変更等、保護者会（年1回）	移行支援	高校卒業時には、学校との連携、グループホーム、就労支援事業所、短期入所等の見学や体験ができます。		
地域支援・地域連携	江南、大塚地域の公園での遊び、清武公園、久峰公園、のじりこピアへの外出西地区・東地区交流センターへの登録と利用	職員の質の向上	強度行動障害支援（基礎・実践）児童発達管理責任者研修 虐待防止権利擁護委員会 安全管理委員会		
主な行事等	通年 避難訓練 誕生日会 イベント参加（大学の学園祭） 調理活動（パンケーキ、ワッフル、ホットサンド、クレープ、鯛焼き、たこ焼き、月見団子、かき氷、米粉パン、クリームソーダ、オムライス、親子丼他） 施設内での園芸（母の日の花束づくり）各月はミント便りで1ヶ月ごとにお知らせします。夏は職員を増員しプール遊び（施設内デッキ・動物園のながれるプール）				